

日立金属株式会社

2016年度第2四半期累計決算説明

2016年10月27日

1	2016年度第2四半期累計業績概要
2	2016年度業績見通し
3	2018年度中期経営計画 進捗状況説明

需要 動向

世界経済は、先進国を中心に緩やかな回復基調が続いたが、アジアでは経済成長が鈍化
国内は、円高基調の継続や新興国経済の停滞等による影響が懸念される状況が継続

- 自動車は、国内の軽自動車不振、米国の乗用車減少があるも、中国と欧州の需要が伸長し、全体として前年同期比で増加
- 産業インフラ関連は、鉄鋼は中国の高水準な輸出により需給の緩んだ状態が継続
米国・国内住宅着工戸数は増加
- エレクトロニクス・情報システム関連は調整が継続

1-2. 2016年度第2四半期累計 業績概要

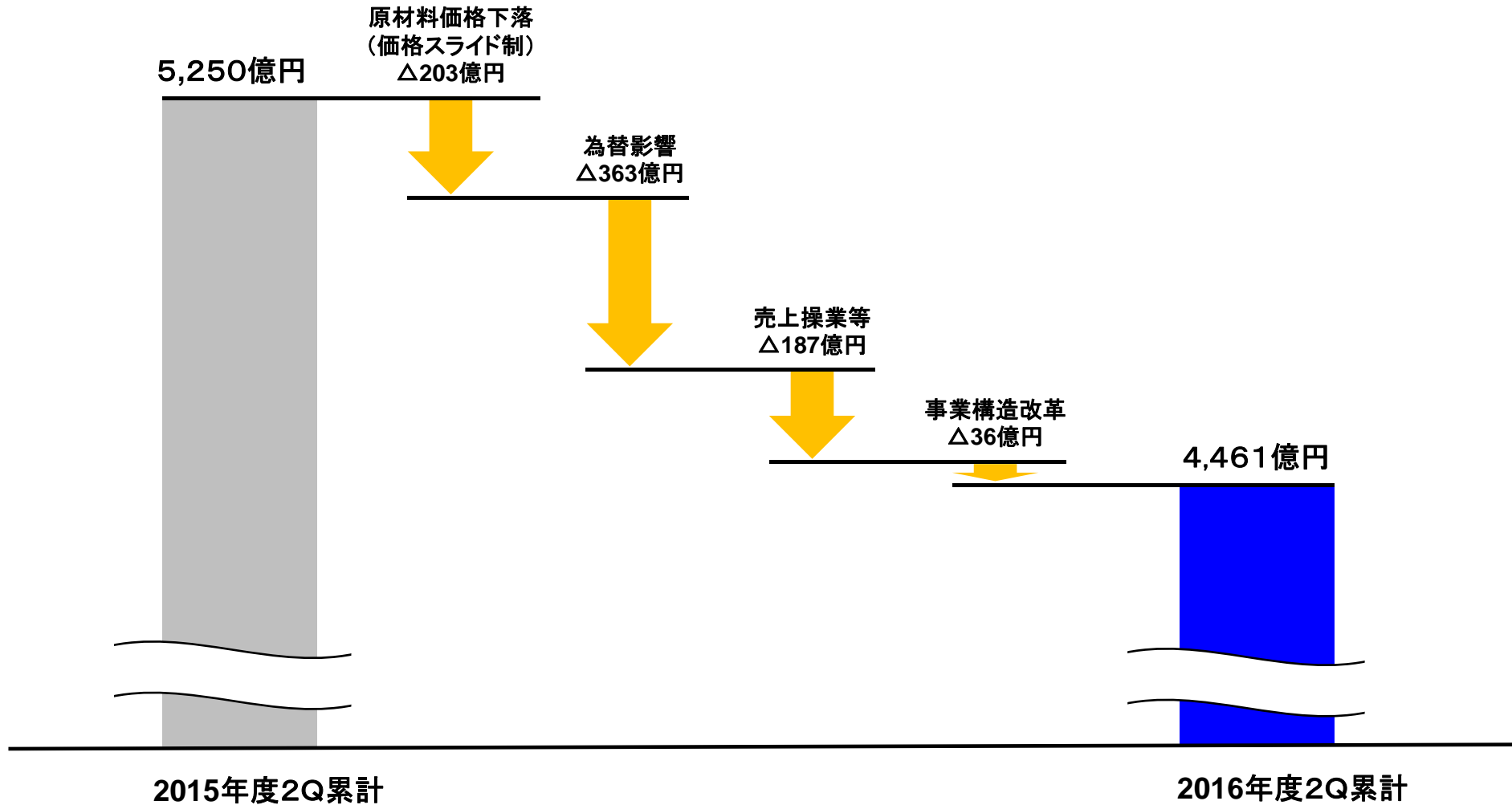
IFRS				
(金額単位:億円) ()は利益率	15年度 2Q累計実績 1\$=121.80円	16年度 2Q累計実績 1\$=105.29円	増減	
売上収益	5,250	4,461	△15%	原材料価格下落(価格スライド制)、為替影響、需要減等により減収
調整後営業利益	(6.9%) 362	(7.0%) 310	△52	原価低減やモノづくり改革の効果はあったが、為替影響、需要減等により減益
その他の収益	318	28	△290	15/上期に事業再編等利益293億円計上
その他の費用	△64	△50	+14	
IFRS営業利益	(11.7%) 616	(6.5%) 288	△328	
利息・その他の金融収益等	△9	△40	△31	16/上期に為替差損△28億円
税引前四半期利益	607	248	△359	
法人所得税費用	△166	△65	+101	
四半期利益	441	183	△258	
親会社株主に帰属する 四半期利益	438	183	△255	
海外売上比率 *	57%	55%	△2%	
人 員 (人)	29,413	28,772	△641	

* 海外売上地域別構成比

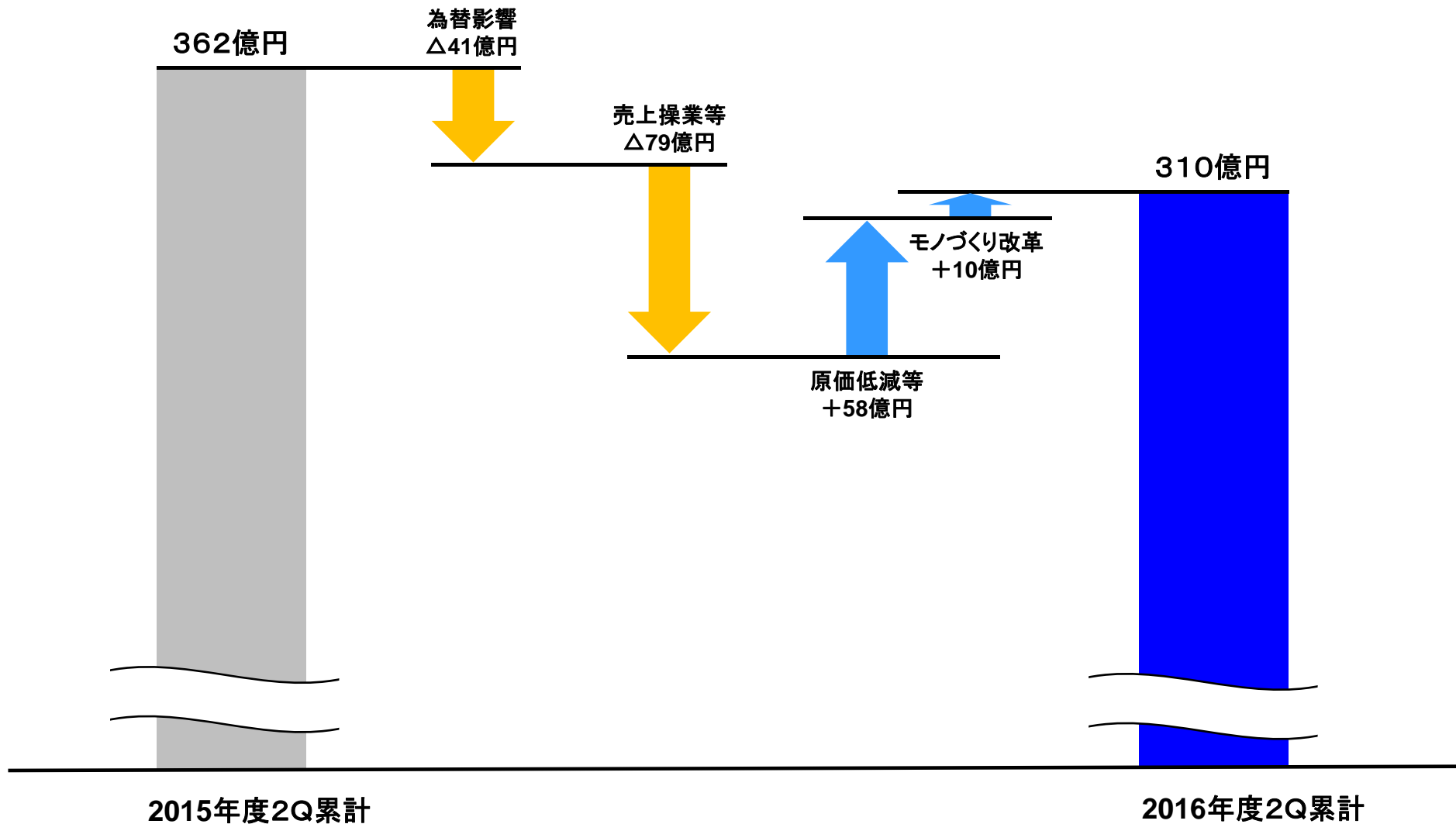
15/2Q累計: 北米31%、中国8%、その他アジア12%、欧州4%、その他2%

16/2Q累計: 北米30%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

1-3. 売上収益の増減要因(前期比)



1-4. 調整後営業利益の増減要因(前期比)



1-5. 2016年度第2四半期累計 セグメント別業績

		IFRS				
(金額単位:億円) ()は利益率		15年度 2Q累計実績* 1\$=121.80円	16年度 2Q累計実績 1\$=105.29円	増 減		*2016年度に磁性材料セグメントのうち、軟質磁性材料を高級金属製品セグメントに移管。また、本社負担研究開発費をカンパニー負担に変更。2015年度2Q累計実績は上記のセグメント変更後の数値を記載。
高級 金属製品	売上収益	1,318	1,159	△12%		自動車関連の環境親和製品は売り上げを伸ばしたが、アジアを中心とする経済減速の影響や軟質磁性材料の中国向け需要減により、減収・減益 15/上期に旧日立ツール株式売却に伴う事業再編等利益270億円計上
	調整後営業利益	(10.3%) 135	(9.6%) 111	△24		
	セグメント利益	(30.5%) 402	(8.6%) 100	△302		
磁性材料	売上収益	549	485	△12%		需要は堅調だったが、原材料価格の下落(価格スライド制)と為替の影響を受け、減収 為替の影響はあったが、堅調な需要により、前年同期並み
	調整後営業利益	(6.6%) 37	(7.7%) 38	+1		
	セグメント利益	(6.5%) 36	(7.6%) 37	+1		
高級 機能部品	売上収益	1,890	1,625	△14%		北米ピックアップトラック向けは好調であったが、北米の農機・建機向けの需要減等や為替の影響により、減収 為替影響に加え、耐熱鋳鋼の新製品対応等により、減益
	調整後営業利益	(6.8%) 128	(5.8%) 93	△35		
	セグメント利益	(6.4%) 122	(5.6%) 91	△31		
電線材料	売上収益	1,476	1,187	△20%		鉄道向けは伸長したが、巻線、建設向けの減少、原材料価格の下落(価格スライド制)の影響により、減収 鉄道向けは伸長したが、巻線、建設向け電線の減少により、前年同期並み 15/上期に事業再編等利益22億円計上
	調整後営業利益	(4.2%) 62	(5.1%) 61	△1		
	セグメント利益	(4.3%) 63	(4.5%) 54	△9		
その他・ 調整額	売上収益	17	5	—		
	調整後営業利益	0	7	+7		
	営業利益	△7	6	+13		
合 計	売上収益	5,250	4,461	△15%		
	調整後営業利益	(6.9%) 362	(7.0%) 310	△52		
	営業利益	(11.7%) 616	(6.5%) 288	△328		

1-6. セグメント別業績： 高級金属製品

(金額単位:億円) ()は利益率	15/2Q累計	16/2Q累計	増減	補足
売上収益	1,318	1,159	△12%	自動車関連の環境親和製品は売り上げを伸ばしたが、アジアを中心とする経済減速の影響や軟質磁性材料の中国向け需要減により、減収・減益
調整後営業利益	(10.3%) 135	(9.6%) 111	△24	
セグメント利益	(30.5%) 402	(8.6%) 100	△302	15/上期に旧日立ツール株式売却に伴う事業再編等利益270億円計上

売上収益の状況

■特殊鋼

- ・工具鋼：アジアを中心とする経済減速の影響を受けた在庫調整があり、前年同期を下回る
- ・産業機器材料：自動車関連の環境親和製品等が売り上げを伸ばしたほか、その他産業部材も堅調に推移
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料：需要の端境期
- ・電子材料：ディスプレイ関連材料が低調

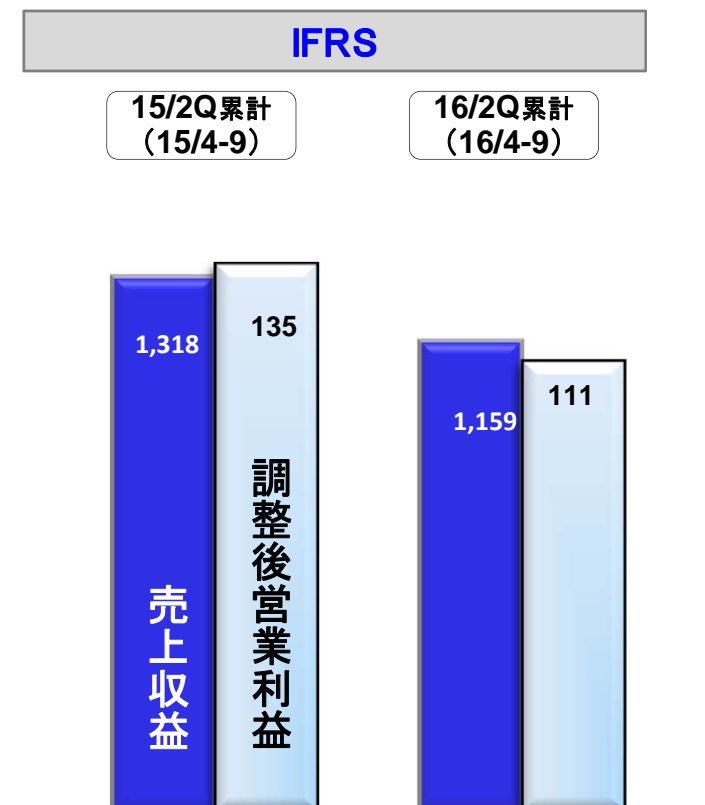
■ロール

- ・各種ロール：高付加価値製品に経営資源を集中することを目的に、2016年9月1日をもって宝鋼日立金属軋(南通)有限公司の生産を打ち切り
- ・射出成形機用部品：携帯端末の需要減少の影響を受けたことにより、前年同期と比べて減少

■軟質磁性材料・応用品

中国向けの減少により、前年同期を下回る

(金額単位:億円)



1-7. セグメント別業績： 磁性材料

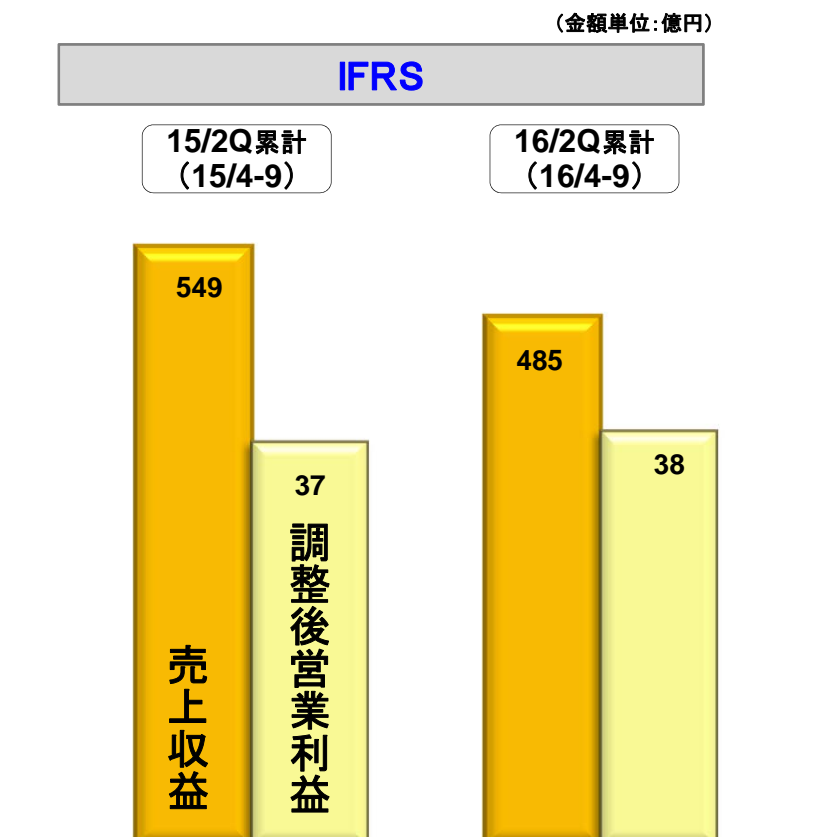
(金額単位:億円) ()は利益率	15/2Q累計	16/2Q累計	増 減	補 足
売上収益	549	485	△12%	需要は堅調だったが、原材料価格の下落(価格スライド制)と為替の影響を受け、減収
調整後営業利益	(6.6%) 37	(7.7%) 38	+1	為替の影響はあったが、堅調な需要により、前年同期並み
セグメント利益	(6.5%) 36	(7.6%) 37	+1	

売上収益の状況

■マグネット

当セグメント全体としては原材料価格の下落(価格スライド制)や為替相場の円高基調が継続した影響で前年同期を下回る

- ・希土類磁石:
電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が好調に推移したが、産業機器および家電関連の需要は前年同期並み
- ・フェライト磁石:
フェライト磁石については、自動車用電装部品、家電用部品ともに好調



1-8. セグメント別業績：高級機能部品

(金額単位:億円) ()は利益率	15/2Q累計	16/2Q累計	増減	補足
売上収益	1,890	1,625	△14%	北米ピックアップトラック向けは好調であったが、北米の農機・建機向けの需要減等や為替の影響により、減収
調整後営業利益	(6.8%) 128	(5.8%) 93	△35	為替影響に加え、耐熱鋳鋼の新製品対応等により、減益
セグメント利益	(6.4%) 122	(5.6%) 91	△31	

売上収益の状況

■自動車用鋳物

・自動車用鋳物:

北米において、ピックアップトラック向けは好調を維持したが、新興国経済の減速や穀物・原油価格の下落等の影響を受け、農業機械・建設機械向けの需要が減少したため、全体としては前年同期と比較して減少

・耐熱鋳造部品:

欧州向けが堅調に推移したほか、米国・アジア向けも大きく伸長し、前年同期を上回る

・アルミホイール:

需要は堅調だが為替相場の円高基調が継続した影響により、前年同期を下回る

■配管機器

・鋳物継手類:

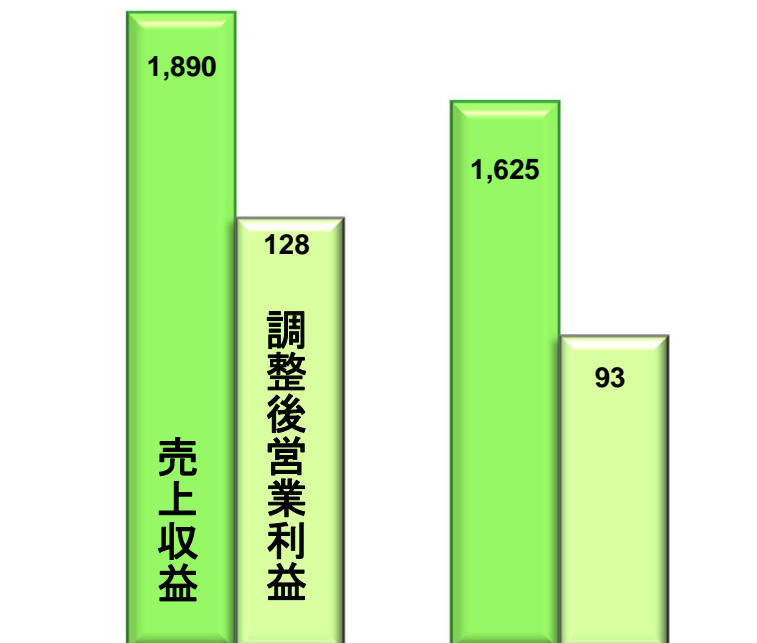
継手類は、住宅向けは国内・海外とも住宅着工戸数の増加に伴い伸長したが、国内で大規模建設工事の遅れの影響があり、全体としては前年同期と比較して減少

(金額単位:億円)

IFRS

15/2Q累計
(15/4-9)

16/2Q累計
(16/4-9)



1-9. セグメント別業績：電線材料

(金額単位:億円) ()は利益率	15/2Q累計	16/2Q累計	増減	補足
売上収益	1,476	1,187	△20%	鉄道向けは伸長したが、巻線、建設向けの減少、原材料価格の下落(価格スライド制)の影響により、減収
調整後営業利益	(4.2%) 62	(5.1%) 61	△1	鉄道向けは伸長したが、巻線、建設向け電線の減少により、前年同期並み
セグメント利益	(4.3%) 63	(4.5%) 54	△9	15/上期に事業再編等利益22億円計上

売上収益の状況

■電線

巻線や建設向けが減少したが、注力分野である鉄道車両用電線が中国向けを中心に大きく伸長

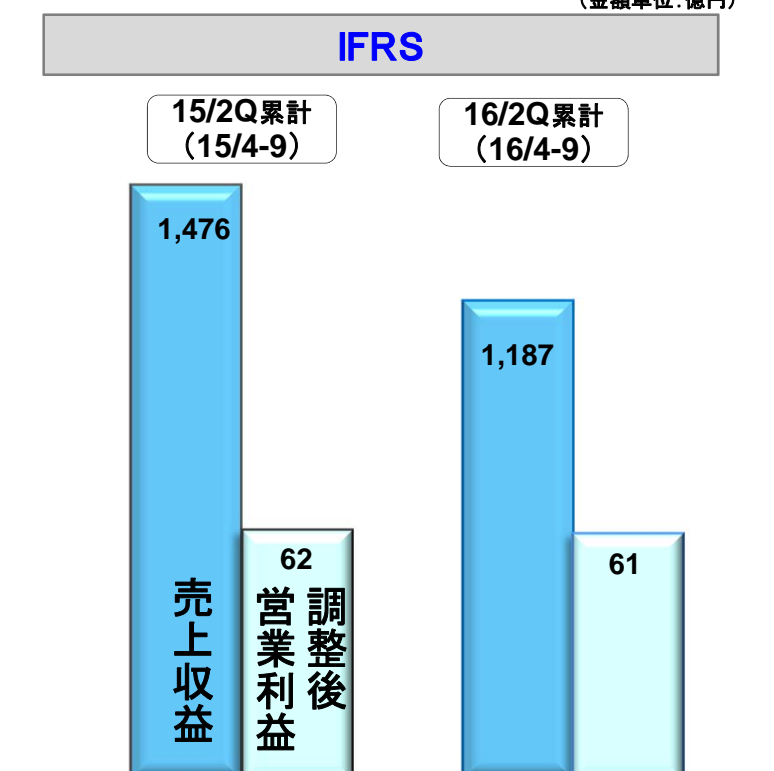
■機能品

- ・自動車部品は、自動車用電装部品、ブレーキホースとも堅調
- ・医療用プローブケーブルは、海外向けの需要減により、前年同期を下回る

■情報システム

通信事業者の設備投資の調整が継続

(金額単位:億円)



1-10. 資産/負債・純資産

(金額単位:億円)

科 目	16年3月末 1\$=112.68円	16年9月末 1\$=101.12円	増 減
現金および現金同等物	1,203	1,192	△11
売上債権	1,783	1,704	△79
棚卸資産	1,470	1,410	△60
その他流動資産	382	355	△27
非流動資産	5,495	5,251	△244
資産合計	10,333	9,912	△421
有利子負債	2,204	2,120	△84
買入債務他	1,514	1,416	△98
その他負債	1,568	1,446	△122
負債合計	5,286	4,982	△304
親会社株主持分	4,959	4,847	△112
非支配持分	88	83	△5
資本合計	5,047	4,930	△117
D/Eレシオ (倍)	0.44	0.44	—

16年3月末対比
資産合計421億円減少

D/Eレシオ 0.44 → 0.44

【資産】16年3月末比 421億円減少

【負債】16年3月末比 304億円減少

【資本合計】16年3月末比117 億円減少

⇒為替影響による減少

1-11. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位:億円)

科 目	15/2Q累計	16/2Q累計	増 減
第2四半期累計利益	441	183	△258
減価償却費	213	212	△1
運転資金の増減	113	△53	△166
その他	△270	10	+280
営業キャッシュ・フロー	497	352	△145
固定資産の取得	△296	△286	+10
その他	328	26	△302
投資キャッシュ・フロー	32	△260	△292
フリーキャッシュ・フロー	529	92	△437
借入金・社債の増減	△84	6	+90
配当金支払 他	△57	△57	0
財務キャッシュ・フロー	△141	△51	+90
為替変動影響	△15	△52	△37
現金及び現金同等物の増減額	374	△11	△385
現金及び現金同等物の期末残高	1,164	1,192	+28

【営業キャッシュ・フロー】

第2四半期累計利益の減少等により、前年同期に対し、145億円の減少

【投資キャッシュ・フロー】

15/上期は旧日立ツール株式売却による収入があったこと等により前年同期に対し、292億円の減少

1	2016年度第2四半期累計業績概要
2	2016年度業績見通し
3	2018年度中期経営計画 進捗状況説明

2-1. 2016年度下期業績見通しの前提

事業環境

中国・新興国の景気減速による需要停滞が継続
為替の円高やそれに伴う輸出競争力の低下を懸念

➤自動車関連

グローバルでは堅調な需要が続くが、北米需要は横ばい
農機・建機等新興国需要は調整が継続。HEV関連は好調を維持

➤産業インフラ関連

国内設備投資関連は改善が足踏み
航空機・エネルギー関連は需要の端境期

➤エレクトロニクス関連

中国・新興国を中心に需要の鈍さが継続

為替前提

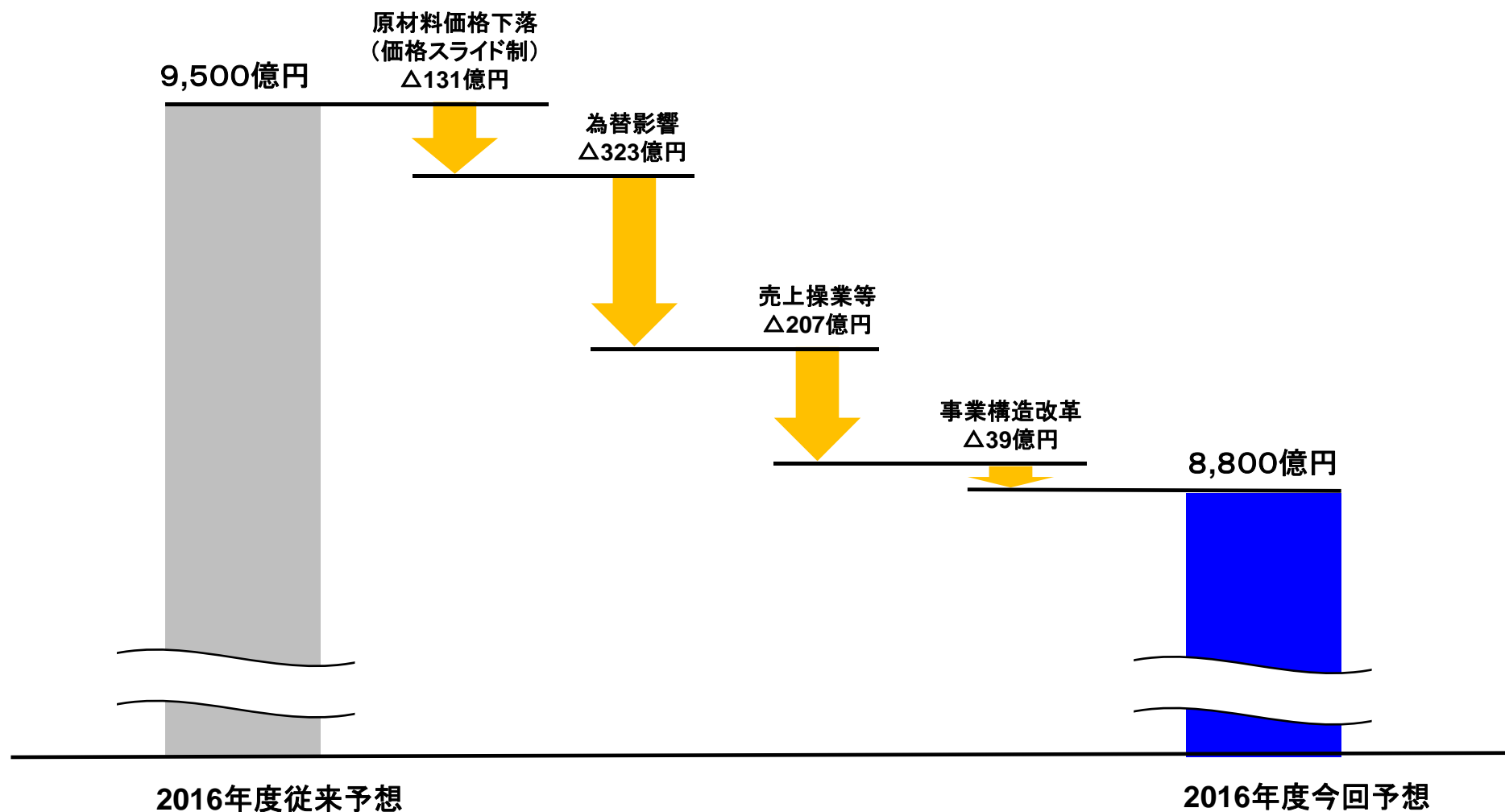
想定為替レートを1\$=110円から1\$=100円に変更

2-2. 2016年度業績予想

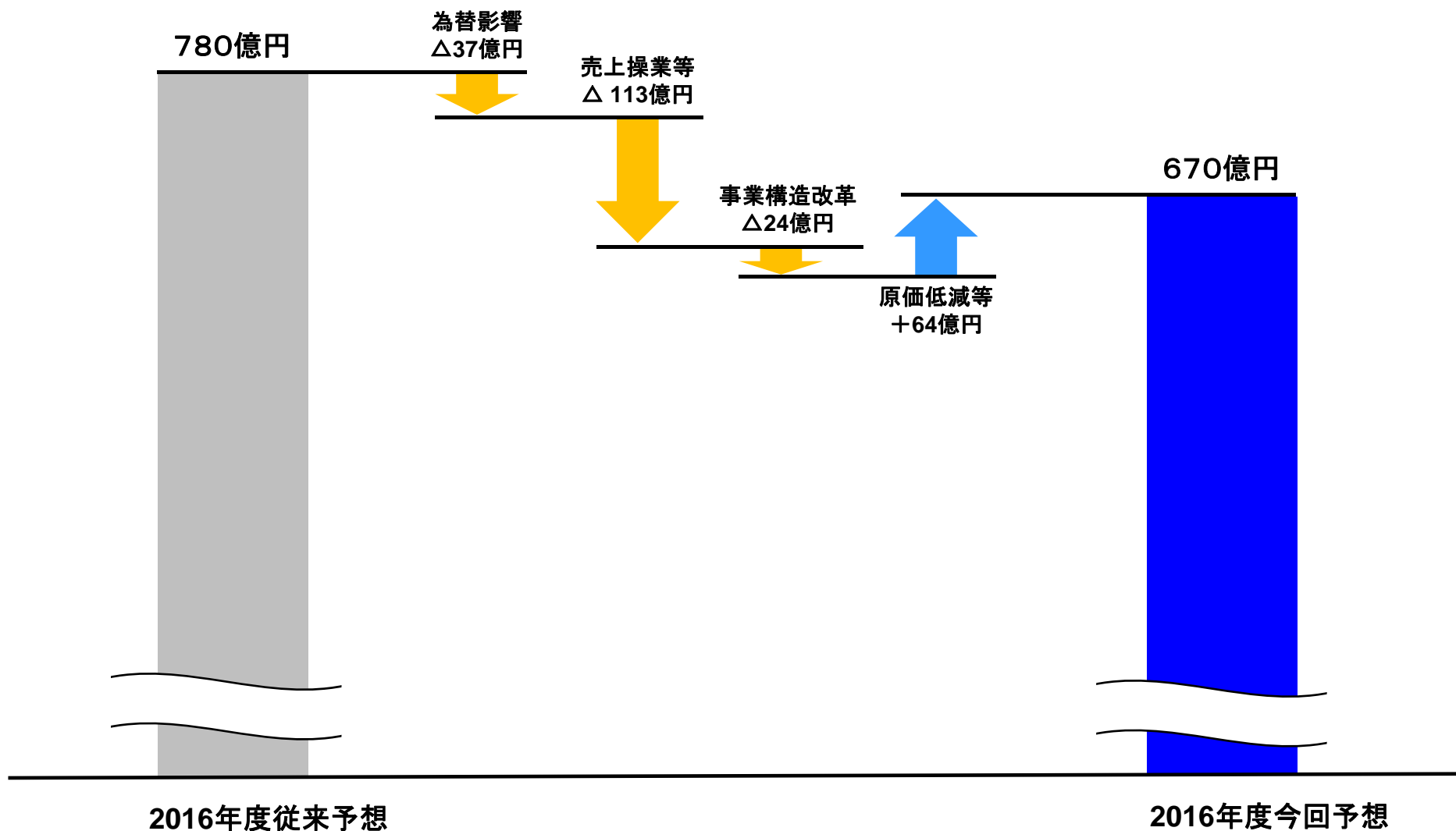
IFRS					
(金額単位: 億円) ()は利益率	15年度 実績 1\$=120.14円	16年度 従来予想 16年4月27日公表 想定為替レート 1\$=110円	16年度 今回予想 上期実績為替レート 1\$=105.29円 下期想定為替レート 1\$=100円	従来と 今回の 増減	
売上収益	10,176	9,500	8,800	△7%	原材料価格下落(価格スライド制)、 為替影響、需要減、事業構造改革実行によ り見直し
調整後営業利益	(7.5%) 761	(8.2%) 780	(7.6%) 670	△110	原価低減等を強化するが、為替影響、需要 減、事業構造改革実行により見直し
IFRS営業利益	(9.8%) 1,000	(7.2%) 680	(7.7%) 680	0	情報システム事業、リードフレーム事業譲渡 による譲渡益
EBIT	991	680	652	△28	
税引前利益	962	650	630	△20	為替差損
当期純利益*	691	450	450	0	
資産合計	10,333	10,330	9,860	△470	
親会社株主持分	4,959	5,232	4,990	△242	
有利子負債	2,204	1,930	1,920	△10	
D/Eレシオ (倍)	0.44	0.37	0.38	+0.01	
ROE	14.4%	8.8%	9.0%	+0.2%	
海外売上比率	56%	55%	55%	0	
人員 (人)	29,157	29,000	28,400	△600	

* 親会社株主に帰属する当期利益

2-3. 売上収益の増減要因(従来予想比)



2-4. 調整後営業利益の増減要因(従来予想比)



2-5. 2016年度業績予想(セグメント別売上高・調整後営業利益)

IFRS						
		15年度 実績*	16年度 従来予想 16年4月27日公表 想定為替レート 1\$=110円	16年度 今回予想 上期実績為替レート 1\$=105.29円 下期想定為替レート 1\$=100円	従来と 今回の 増減	
(金額単位:億円) ()は利益率		1\$=120.14円				*2016年度に磁性材料セグメントのうち、軟質磁性材料を高級金属製品セグメントに移管。また、本社負担研究開発費をカンパニー負担に変更。2015年度実績は上記のセグメント変更後の数値を記載。
高級 金属製品	売上収益	2,567	2,510	2,300	△8%	自動車関連の環境親和製品は堅調に推移するが、アジア・国内需要は従来予想ほど伸びない見通しであるため減収減益。
	調整後営業利益	270	270	240	△30	
	調整後営業利益率	10.5%	10.8%	10.4%	△0.4%	
磁性材料	売上収益	1,053	1,000	960	△4%	為替の影響や原材料価格の下落(価格スライド制)により減収。利益面では、希土類磁石は、自動車用が堅調維持。産業機器関係の需要も回復基調にあるため増益。
	調整後営業利益	69	80	85	+5	
	調整後営業利益率	6.6%	8.0%	8.9%	+0.9%	
高級 機能部品	売上収益	3,651	3,290	3,140	△5%	為替の影響により減収。また、利益面では、為替の影響に加え、耐熱鋳鋼における加工難易度の高い新製品への対応等により当初予想を下回る見込み。
	調整後営業利益	261	250	190	△60	
	調整後営業利益率	7.2%	7.6%	6.1%	△1.5%	
電線材料	売上収益	2,882	2,680	2,360	△12%	建設向け電線の大口案件の後ろ倒しおよび原材料価格の下落(価格スライド制)、事業構造改革の影響により減収減益。成長分野(鉄道、医療、電装部品)は従来予想どおり堅調に推移見込み。
	調整後営業利益	150	177	150	△27	
	調整後営業利益率	5.2%	6.6%	6.4%	△0.2%	
その他 ・調整額	売上収益	23	20	40	-	
	調整後営業利益	11	3	5	+2	
合 計	売上収益	10,176	9,500	8,800	△7%	
	調整後営業利益	761	780	670	△110	
	調整後営業利益率	7.5%	8.2%	7.6%	△0.6%	

1	2016年度第2四半期累計業績概要
2	2016年度業績見通し
3	2018年度中期経営計画 進捗状況説明

勝てる事業体へ「変革」、
そして新しい目標に「挑戦」
～世界トップクラスの高機能材料会社を実現～

2018年度 中期経営計画 重点施策

1. 成長戦略の立案と実行を加速
2. 筋肉質な事業構造・高効率事業運営
3. 長期的に持続可能な経営基盤の確立

当社の
めざす姿

収益率向上を伴うグローバルでの事業拡大



ポートフォリオの継続的な刷新

高収益・高成長分野へ集中

経営資源の効率運用

オーガニックグロース(設備投資、R&D)

研究開発の強化加速

全社モノづくり改革の推進

M & Aによる成長

シナジー効果の創出

早期事業化・人材獲得

■短期的な影響と対策

急激な為替変動
新興国経済の低迷

- ・グローバル最適地生産体制の推進
- ・廉価材料への切替推進

■中長期的なトレンド

環境規制の強化
IoTを活用した新サービス
素材技術の進化加速

- ・環境親和製品の増強・拡販
- ・新素材の研究開発
- ・オープンイノベーションの促進

成長の基盤づくりに向け施策をスタートダッシュ

成長の基盤づくりへスタートダッシュを実行

大型投資の 決定・実行

- ・コーポレート研究所開設（新建屋建設 総投資額約100億円）
(2017年4月開設)
- ・磁性材料革新的ライン導入 総投資額約180億円 (2018年度上期稼働)
- ・ターボ用耐熱鋳鋼の生産能力増強 総投資額約70億円 (2016年10月稼働)

グローバル 事業の拡大

- ・新溶解設備による新冷間工具鋼「SLD-i™」量産開始 (2016年4月)
- ・日立金属三環磁材(南通)有限公司を設立(2016年9月)
- ・Waupaca社 ダクティル鋳鉄工場・Gray Iron工場の専用化 (2016年10月)
- ・電線材料成長分野(鉄道・医療・電装部品)の海外拠点能力増強
(2016年度上期～稼働)

事業構造 改革の実行

- ・ロール生産国内集約・強化(中国拠点生産中止) (2016年9月)
- ・情報システム事業の譲渡(2016年12月)
- ・リードフレーム事業売却、伸銅事業子会社化による構造改革加速
(2017年1月)

基盤強化

- ・モノづくり改革による棚卸資産回転率、不良率の改善

3-6. 2018年度中期経営計画 主要経営数値（目標）

(金額単位:億円)	2015年度実績 為替レート 1\$=120円	2016年度予想 上期実績為替レート 1\$=105円 下期想定為替レート 1\$=100円	2018年度計画(目標) 想定為替レート 1\$=115円
売上収益	10,176	8,800	11,200
調整後営業利益	(7.5%) 761	(7.6%) 670	(10.7%) 1,200
IFRS営業利益	1,000	680	1,120
EBIT	991	652	1,120
税引前利益	962	630	1,075
当期純利益*	691	450	750
資産合計	10,333	9,860	12,500
親会社株主持分	4,959	4,990	6,450
有利子負債	2,204	1,920	2,460
D/Eレシオ（倍）	0.44	0.38	0.38
ROA	6.5%	4.5%	6.4%
ROE	14.4%	9.0%	12.2%
海外売上比率	56%	55%	58%
人員（人）	29,157	28,400	29,400

* 親会社株主に帰属する当期利益

オーガニックグロース拡大を実現するモノづくり力

IoTによる
革新的モノづくり構築



マテリアルフロー全体での
製造技術革新

全社活動の展開によるキャッシュフロー改善

金属材料	<ul style="list-style-type: none"> ・製造データ分析・可視化による生産管理システム構築 ・全社活動によるリードタイム、棚卸資産の削減
磁性材料	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTを利活用した革新的ライン構築(2018年度上期稼働予定) ・磁石焼結条件解析による不良率改善
機能部品	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造条件解析によるロスコスト改善、新製品早期立上 ・加工機械の稼働率向上と精度向上による生産性改善
電線材料	<ul style="list-style-type: none"> ・IoTを利活用した新連続圧延ライン構築(2018年度稼働予定)



2016年度上期効果10億円→2018年度200億円(2015年度対比)

真の「開発型企业」へ

事業戦略を先導するR&Dの実現

■コーポレート研究所の開設(2017年4月)

概要

- ・新建屋建設 投資額約100億円(2018年4月竣工)
磁性材料研究所、生産システム研究所 同床化
- ・グローバルで250名体制
5年後をめどに海外拠点を設置

コンセプト

- ・中長期的・事業横断的なイノベーションの促進
- ・先端材料開発とプロセス開発の融合
- ・オープンイノベーションの促進
- ・人財育成機関としての機能を充実

新事業創生 テーマの推進

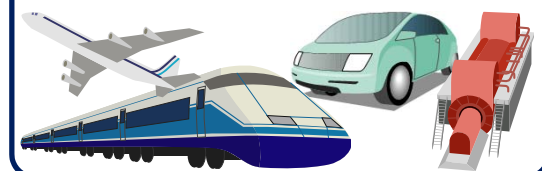
- ・脅威/機会を視野に入れた15テーマを推進中
- ・2025年: 期待売上収益総計 1,800億円
期待利益総計 200~250億円
- ・複合化素材、マルチマテリアル開発へ注力

コーポレート研究所新建屋



成長市場で新事業創生

研究開発費120億円



基盤事業のモノづくり強化と海外拡販加速

■ 工具鋼グローバル拡販

製品付加価値拡大への投資前倒し推進
→ グローバル拡販をめざした適地適産体制確立

熱処理設備
中国

加工設備
米国・中国・タイ・韓国

表面処理
韓国・台湾

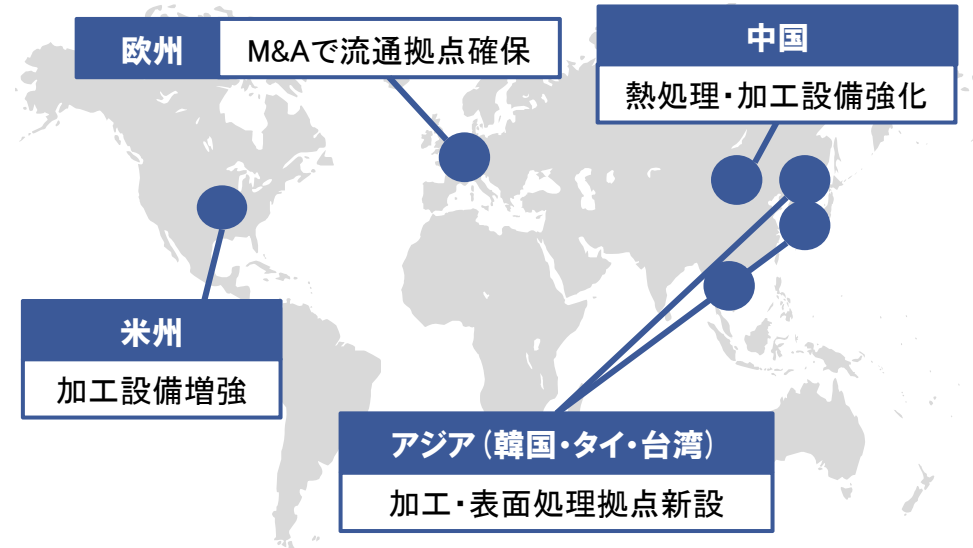
M&Aによる流通拠点確保

→ 米州: Diehl Tool Steel, Inc. (2015年11月)

欧州: 進行中

新冷間工具鋼 SLD-i™

(2016年4月量産開始 → 2017年度量産拡大)



海外拠点強化を加速
(熱処理・加工・表面処理)

■ ロール生産の国内集約および強化

国内拠点へ生産集約 (中国拠点生産中止) (2016年9月)

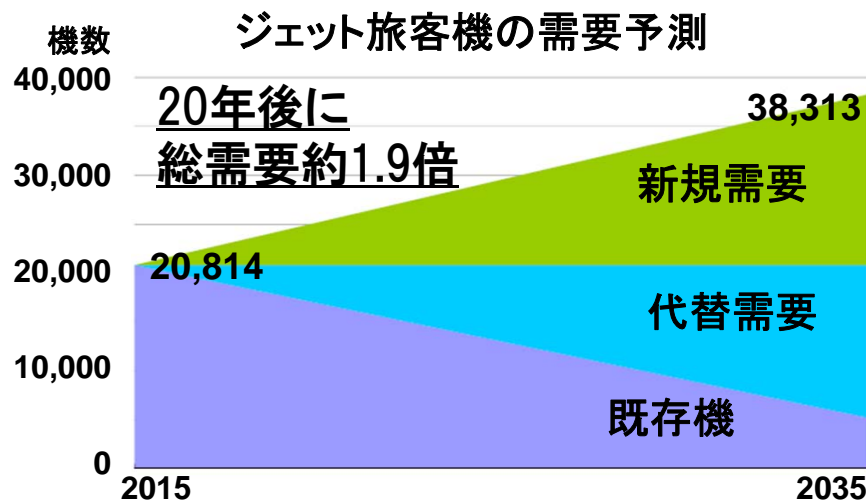
新製品の海外拡販、超ハイテン冷延ロール開発

国内生産集約で
新たな成長へ
(生産性革新・開発加速)

新たな成長ドライバーへの継続的な投資

■航空機・エネルギー事業の強化・拡大

2025年度売上600億円へ



出典：日本航空機開発協会「民間航空機に関する市場予測 2016-2035」

三社シナジー効果の発現

5万トプレス、840トリングミルなどを武器に
新規受注・認定量産化が進行

需要を確実に捕捉

世界の「4強」に挑戦

高級金属カンパニー 売上計画
2,567億円 (2015年度) ⇒ 3,100億円 (2018年度)

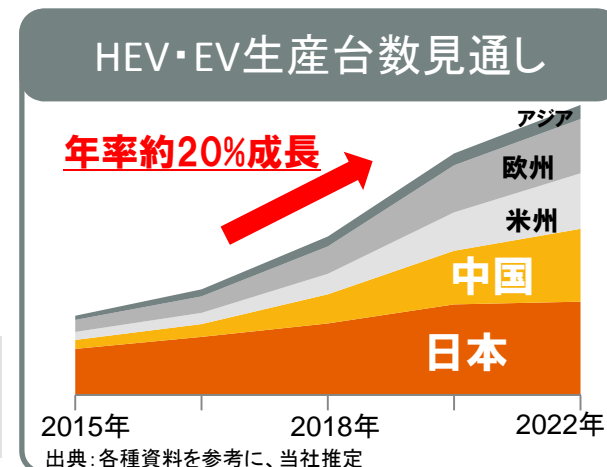
HEV・EV需要への対応と中国拠点の戦力化

■拡大するHEV・EV需要への対応

熊谷工場のマザー工場化と革新的生産ラインの導入
(2018年度上期稼働)

磁性材料研究所を熊谷地区へ移転
(2018年4月移転)

原料リサイクル・内製化によるマテリアルフローの強化
(2018年度開始)



■中国拠点の早期戦力化 (2016年9月設立)

生産開始:2017年3月予定

生産能力:1,000トン/年(2017年度) ⇒ 2,000トン/年

売上目標:100億円(2018年度)

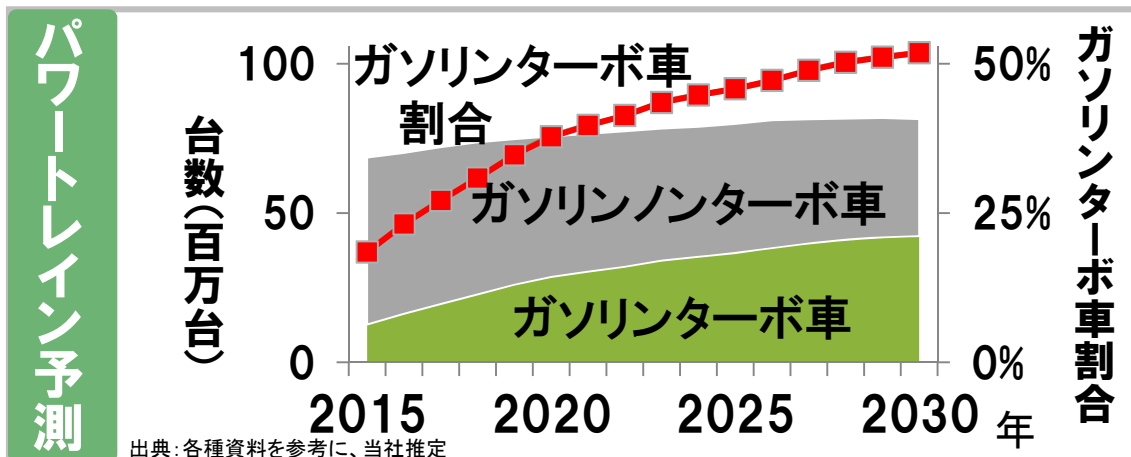


日立金属三環磁材(南通)有限公司の外観

磁性材料カンパニー 売上計画
1,053億円(2015年度) ⇒ 1,320億円(2018年度)

モノづくり基盤の強化で世界トップを堅持

■耐熱鋳鋼ハーキュナイト® 鋳造ライン10月稼働開始



生産能力6割増
受注獲得済み
下期フル生産前倒し開始

↓

さらなる能力拡大



■鋳鉄 素材設計力と圧倒的な生産量による世界トップ堅持

製品高付加価値化	Waupaca社 ダクタイル鋳鉄工場・Gray Iron工場の専用化 (2016年10月)
カーメーカー中南米市場進出に対応	中南米市場への新たな供給体制の検討
非乗用車向け拡大	大型品生産能力増強で商用トラック・建機・農機向け拡販






高級機能部品カンパニー 売上計画

3,651億円(2015年度) ⇒ 3,750億円(2018年度)

ポートフォリオ刷新による高収益体質確立

■成長3分野へ経営資源の集中投入

鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・中国：車両用電線生産能力増強(2016年度上期稼働) ・チェコ：ハーネス組立設備導入(2016年度下期稼働) 	
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・HTP-Meds社 量産新工場設置(2016年度上期稼働) ・複合製品の開発、クロスセルによる事業領域深耕・拡大 	
電装部品	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコ拠点に電装部品新ライン導入(2016年度上期稼働) 	

さらなるM & Aも視野に入れたグローバル事業拡大

■事業構造改革の実行

情報システム事業(情報ネットワーク事業・ワイヤレスアンテナ事業)の譲渡(2016年12月)

リードフレーム事業売却、伸銅事業子会社化による事業構造改革加速(2017年1月)

電線材料カンパニー 売上計画

2,882億円(2015年度) ⇒ 2,900億円(2018年度)

勝てる事業体へ「変革」、
そして新しい目標に「挑戦」
～世界トップクラスの高機能材料会社を実現～

2018年度 計画

売上収益: 1兆1,200億円

調整後営業利益: 1,200億円 (10.7%)

(想定為替レート 1\$ = 115円)

グローバル成長戦略の実行と経営基盤の強化により
持続的成長をめざす

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動